

時代刷新第3117号・(公財)協和協会第3620号  
平成28年5月19日

## 各 位

# 党派を超えて国家的課題を追求する 公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫  
両団体理事長 半田 晴久  
交通部会長 吉田 英法  
専務理事兼事務局長 清原 淳平

## 交通部会のお知らせ (第239回)

日 時 平成28年5月25日（水）午後1時半～3時半  
場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第7会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国會議事堂前駅（丸の内線・南北線）①番出口より下車2分、  
永田町駅（有楽町線・半蔵門線）①番出口より下車5分。当日、  
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。そ  
の時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにて  
お待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第7会議  
室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の交通事故情勢について想う  
挨拶 吉田英法部会長（元警察庁関東管区警察局長）
  - 2、道路交通法施行令の一部を改正する政令案等に対する  
意見の募集について
  - 3、春の連休時における交通事故発生状況
  - 4、交通事故統計（4月中及び5月24日まで）  
解説 警察庁交通企画課中嶋正浩課長補佐（警視）

報 告

去る4月26日開催の第238回交通部会は、吉田英法部会長が議長を務め行われました。まず、吉田部会長より、「最近の交通事故情勢について想う」と題して開会挨拶がありました。今回は、30日以内死者数の国際比較についても取り上げるが、所謂新興国は確たるデータがなく、まだ国際比較できるレベルにはない。日本の交通事故死者は諸外国に比べ特に歩行者が多いことが特徴としてあるが、それには町づくりのあり方も関係している。車社会を想定しているかいないかの違いが大きい。次に、警察庁交通局交通企画課中嶋正浩課長補佐（警視）より、「平成27年中の30日以内交通事故死者数の状況」につい

て解説がありました。平成27年中の30日以内死者数は、4859人で、前年比21人の増、70歳以上の年齢層ではいずれも増加がみられる。仏、独、英、米の人口10万人当たりの最新データと比較すると、英を除く3カ国よりも死者数は少ない。歩行中の割合が高いこと、高齢者の割合が高いことが他の国と比較した特徴である。

次に、「平成27年中の交通事故発生状況」について解説がありました。平成27年中の交通事故発生件数は53万6899件で、前年比6.4%の減、負傷者数は66万6023人で、前年比6.4%の減となり、死者数だけが増加した。自転車事故件数は、10万件を割ったが、こちらも死者数のみ増加している。

次に、「春の全国交通安全運動」について解説がありました。春の全国交通安全運動は、4月6日（水）～15日（金）の10日間、子供と高齢者の交通事故防止を運動の基本とし、また自転車の安全利用の推進、後部座席を含む全席シートベルト着用の徹底、飲酒運転の根絶を全国重点とした。結果、期間中の交通事故死者数は110人で前年同期に比べ1人増、高齢者は62人で同じく1人増、自転車乗用中は18人で2人増となった。飲酒運転による事故は56件と前年から37件と大きく減らした。

次に、「交通事故統計」について説明がありました。4月25日（部会前日）までの事故死者数は、1186人で前年比55人の減、うち高齢者は667人で同5人の増となっている。

解説の後、委員一同にて盛んな意見交換がありました。○頭部の損傷が死亡事故につながりやすいというのは以前から言っていたことだが、自転車乗用中のヘルメットの着用を全年齢層において義務付ければ死者数減少に寄与できるのではないか。デザインより、横からの衝撃に耐えうるもののが望ましい。○そもそも海外では子供を一人で自転車に乗せないという。○タクシーの初乗り料金値下げは、高齢者が気軽にタクシーに乗れるという面で歩行中の死亡事故は減るが、悪質業者の参入には留意すべきだ。

## 5月25日（水）の交通部会（衆1）に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 FAX 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX

電話 \_\_\_\_\_

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、  
前日までに事務局へ御連絡下さい。

事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)